

『小学校英語教育学会誌』（JES Journal）執筆要領

『小学校英語教育学会誌』（JES Journal）は、小学校英語教育学会の発行する査読付き研究誌である。本研究誌は、小学校の英語教育に関する研究及び実践に関して、実証的、実践的または、理論的に優れた発表を掲載する。

1. 投稿の条件及び諸注意

- (1) 当該年度の全国大会で発表されたもので、1人1編（共同研究も含む）とし、執筆者は、研究論文か実践報告かを申告する。
- (2) 昨年度投稿して不採用となった原稿は翌年度に限り再投稿することが可能である。
- (3) 投稿論文は所定の執筆要領に従って作成する。執筆要領に違反するものは審査の対象外となることがある。
- (4) 英文原稿及び英文題目は英語母語話者または同等の英語力を有する者によるチェックを投稿前に受けておくこと。
- (5) 統計処理を用いた論文は必要に応じて統計の専門家のチェックを事前に受けておくこと。

2. 使用言語

使用言語は日本語または英語とする。

3. 投稿原稿の提出方法

投稿原稿の提出は電子的に行い、全て電子メールにてWord、一太郎もしくはPDF化した原稿での提出とする。送付するファイルとして「事務局保管用」と「査読用」をそれぞれ1部ずつ、小学校英語教育学会学会誌編集委員会事務局のアドレスに電子メールで送ること。



kiyo@e-jes.org

「事務局保管用」は完全原稿のWord、一太郎もしくはPDFファイルとし、「査読用」は執筆者を特定することが可能と思われる全ての記述（氏名、所属機関名、注や謝辞及び科学研究費補助金等による研究への言及に関する情報）をXXXと表示させ、特定できないようにする。なお、原稿提出時に、以下の「**投稿原稿提出時の申告内容**」により、原稿の種類、原稿題目（英文原稿の場合には、英文題目その和訳、和文原稿の場合には、和文題目とその英訳）及び氏名（日本語とそのローマ字ないしはアルファベットとそのカタカナ）、所属機関、電子メール以外の連絡方法、原稿の投稿歴を提出する。

<補足>

日本語のタイトルに英訳を求めるのは、刊行後、掲載原稿が第三者により英語の論文等に引用される可能性も含めての対応である。

●投稿原稿提出時の申告内容

投稿者（代表者）は以下の内容を鑑として、研究論文か実践報告かを申告すること。

【メール本文に以下をコピーしてください】

原稿の種類： 研究論文, 実践報告 ←該当しないものを削除してください。

原稿の投稿歴： 以下の2つのうち該当しないものを削除してください。

- (1) 今年度の全国大会で発表
- (2) 昨年度, 投稿原稿の再投稿

原稿題目（英語及び日本語）：

- ・氏名（日本語）：
- ・氏名（フリガナ）：
- ・氏名（ローマ字）：
- ・所属機関：
- ・電子メール以外の連絡方法：（所属先電話・fax, 自宅電話・fax, ほか）ひとつでも構いません。

共同発表の場合は、第二著者以降についてご記入下さい。

- ・共同執筆者氏名（日本語）：
- ・共同執筆者氏名（ローマ字）：
- ・所属機関名：

4. 原稿提出の期間

提出期間は、日本時間で当該年度の9月12日0時～9月30日23時59分までとする。

5. 原稿受領確認手続き及びウイルス対策のお願い

学会誌編集委員会事務局に届いた論文原稿提出メールに対して、4日以内に事務局から論文受領の確認メールを届けるので、必ず受信確認の返信をすること。原稿ファイル送信後、4日経っても事務局から論文受領の確認メールが届かない場合には、すみやかに学会誌編集委員会事務局に問い合わせること。なお、学会誌編集委員会事務局ではウイルス対策を行っている為、投稿者のウイルス対策の状況次第では削除される可能性がある。この点、電子メールでの投稿に際し、投稿者自身のウイルス対策を前提とする。ただし、投稿の事実が確認できる証明が締め切り後の1週間以内に提出された場合、この限りとはしない。

6. 原稿の構成

原稿の構成は、(1) 題目, (2) 執筆者氏名, (3) 所属機関名, (4) キーワード, (5) 要約, (6) 本文 [(a) 目的, (b) 方法, (c) 結果及び考察], (7) 注, (8) 謝辞, (9) 引用文献の順番とする。ただし、(7) 及び(8) は必要に応じて記載するもので、必須ではない。具体的には、以下を参照のこと。

(1) **題目**：英文原稿の場合は英文題目のみ、和文原稿の場合には和文題目とその英訳を書くこと。

(2) **執筆者氏名**：英文原稿の場合は、姓・名の順とする。和文原稿の場合は、和文表記にヘボン式ローマ字による表記を添え、その表記法は英文原稿の場合と同じとする。

(3) **所属機関名**：和文原稿の場合は、その機関名の英訳を添える。所属・勤務先の後に、非常勤の場合は（非常）、学生の場合は（学生）、大学院生の場合は（院生）と書く。現職教員の大学院生の場合は、上の要領で所属・勤務先と院生の両方を併記して書く。

(4) **キーワード**：3語とし、日本語、英語のどちらでも可とする。

(5) **要約**：要約の長さは10行～15行とする。和文の場合は日本語で、英文の場合は英語で記す。

(6) **本文**：要約の次の行から本文を書き始めること。和文原稿の場合、句読点、カギカッコ（「」）等は1文字に数える。各セクションの見出しは太文字を使い、センタリングするとともに、前後に1行の空白を設けること。セクション内の小見出しも太文字とするが、左寄せとする。

7. 原稿の書式（*JES Journal*, 和文及び英文サンプルを参照）

(1) 原稿の総ページ数

原稿の総ページ数は、本文、注、引用文献、図、表等を含めて **6 ページ以上, 16 ページ以内**とする。図や表等は原稿内にレイアウトすること。

(2) 用紙サイズ及び行数と1行の文字数

用紙 A4 判, 縦置き, 横書き, 45 字(英文の場合は半角 90 字) × 38 行

余白 上 25mm, 下 25mm, 左 25mm, 右 25mm

以上は、本文だけでなく、注と引用文献にも適用される。ただし、図表、グラフ、付録については、行間等を適宜調整してもよい。

<注> **学会誌のサイズはB5判**であり、原稿は写真印刷にて**縮小**される。

(3) ページ

原稿にはページをつけないこと。

(4) 本文等のフォントとサイズ

本文、注、引用文献に使用するフォントとサイズについては、英文原稿の場合はTimes New Roman で12ポイントとし、和文原稿の場合はMS明朝で10.5ポイントとする。ただし、図表、グラフ、付録については、英文も和文も、サイズを10ポイントまで下げることができる。

(学会誌のサイズはB5判であり、最終的に原稿が縮小される)ので、その際に図表、グラフ、文字、数字が小さくなりすぎないように注意すること。)

(5) 題目等のフォントとサイズ

[和文原稿の場合]

- ・ 題目：MS明朝・18ポイント・中央揃え
- ・ 題目英訳：Times New Roman・18ポイント・中央揃え
- ・ 執筆者氏名：MS明朝・14ポイント・中央揃え

- ・所属機関名：MS明朝・14ポイント・中央揃え
- ・執筆者氏名ローマ字：Times New Roman・14ポイント・中央揃え
- ・所属機関名英訳：Times New Roman・12ポイント・イタリック体・中央揃え
- ・要約見出し：MSゴシック・12ポイント・**ボールド体**・中央揃え
- ・本文セクション見出し：MSゴシック・12ポイント・**ボールド体**・中央揃え
(例：1. はじめに, 2. 先行研究)
- ・本文小見出し：MSゴシック・12ポイント・左揃え
(例：3.1 参加者)
- ・句読点：全角の「,」「。」を用いる。

[英文原稿の場合]

- ・題目：Times New Roman・18ポイント・中央揃え
- ・執筆者氏名：Times New Roman・14ポイント・中央揃え
- ・所属機関名：Times New Roman・14ポイント・イタリック体・中央揃え
- ・要約見出し (**Abstract**)：Times New Roman・12ポイント・**ボールド体**・中央揃え
- ・要約：Times New Roman・12ポイント
- ・本文セクション見出し：Times New Roman・12ポイント・**ボールド体**・中央揃え
(例：1. Introduction, 2. Method)
- ・本文小見出し：Times New Roman・12ポイント・**ボールド体**・左揃え
(例：2.1 Participants)

(6) 引用文献の書式

文献は、本文中に記載された「引用文献」である。順序は、和書と洋書の文献を混ぜて、アルファベット順に書く。下記（例は全て架空）を参照。

(ア) 紀要等の論文集の場合：

磐梯二郎 (1980). 「発達段階に応じた英語指導法」『英語教授法』第2号, 211-219.

(イ) 単行本の場合：

磐梯二郎 (監修) (1958). 『英語の歴史』 東南書店.

(ウ) 単行本の中の論文の場合：

白河明士 (2003). 「第2章3節 4技能の統合的教授法」山城護郎・筑波太郎・平泉一吉 (編) 『21世紀の英語教育研究』 (pp. 101-126) 太平洋書店.

(エ) 雑誌論文の場合：

長野三郎 (1997). 「Native Speaker の研究」『20世紀の英語教育』8月号, 1-13. 武山書店.

(オ) 著者が複数いる場合：

琵琶真一・青森明彦・Stephen, D. H. (1986). 「英語でコミュニケーションをする生徒の特徴」『猪苗短期大学紀要』第1号, 27-46.

(カ) 同じ著者の文献が連続する場合：

黒木賞三郎 (1996). 『英語評価論の変遷』 大名書店.

黒木賞三郎 (2008). 『英語学習者の動機づけに関する研究』 開運堂書房.

(キ) 文部科学省(文科省)関係書籍の場合：

文部科学省 (1999). 『効果的英語コミュニケーションを目指した指導と評価』 (中学校
外国語指導資料) 開運堂書房.

(ク)英語論文の場合:

Publication Manual of the American Psychological Association (American Psychological
Association) の第6版に準拠すること。

(ケ)単行本の場合:(本のタイトルはイタリックにする)

Carter, R., & McCarthy, M. (1988). *Vocabulary teaching*. London :Wiseman.

(コ)雑誌論文の場合:(雑誌名はイタリックにする)

King, J. A. (1996). The role of episodic memory. *SELE Quarterly*, 22, 17-39.

(サ) [英文原稿]での注意:(和文図書は書名をヘボン式ローマ字で記載し, 英訳をつける。)

Kusatsu, S. (2000). *Nihon no rekishi* [Japanese history]. Tokyo: Shinzanshoten.

8. 応募原稿の採否及び取り扱い

最終的な審査結果は, 当該年度1月末までに投稿者(代表者)に通知される。なお, 審査結果に関する問い合わせは受け付けない。なお, 原稿のファイル)は返却しない。

<原稿の採否>

投稿原稿の採否は次の基準に基づき, 編集委員会の議を経て, A, B, Cのいずれかによる。尚, 採否に関する質問は受け付けない。

A: 採用

B: 修正の上採用

1. 記述の仕方や内容に問題があるもの。
2. 誤記などの誤りがあるもの。

C: 不採用

1. 内容的に不十分で, さらに研究を重ねる必要があるもの。
2. 小学校英語教育との関連性が希薄なもの。
3. 執筆要領に従っていないもの。

9. 採用原稿の校正及び取り扱い

(1) 校正は初校のみ執筆者が行う。また, 書式等を編集委員会が変更することがある。

(2) 本研究誌に掲載された投稿原稿を無断で複製あるいは転載することを禁じる。著作権は小学校英語教育学会(JES)に属し, 複製あるいは転載する場合には文書による承諾を受けることとする。

10. CiNii (Citation Information by NII)へ登録

*JES Journal Vol.12*より, 掲載された研究論文・実践報告はすべて, 国立情報学研究所が運営する学術文献のデータベースCiNii (Citation Information by NII)に登録することとする。

なお、紀要第1号から11号に掲載された研究論文・実践報告に関しては、著者の同意がとれたものから随時CiNiiへ登録していく。原稿の公開は当該年度の学会誌刊行の1年後とする。